

「ふれあい広場」の各コーナーで紹介する人を募集します。自薦他薦は問いません。日ごろ感じている意見や質問なども募集しています。
あて先=〒028-0592 遠野市東館町8番12号
市政企画室(☎@2111内線235)

ふれあい広場

ともに歩んで半世紀

綾織町

千葉 幸次 さん (74歳)
五朝子 さん (73歳)



◆お仕事は…「ばんがり」で料理の下ごしらえをしたり、食器洗いなどを行っています。手際よく仕事をこなすことを常に心掛けています。
◆最近ハマっていることは…パチンコです。休みの日や、仕事が終わってからなど、ほぼ毎日行っています。
◆自己分析すると…温厚です。めったに怒ることがないです。
◆好きな女性のタイプ…優しく背が高い人。
◆将来の夢は…いずれは料理の見習いに出て、父のように一人前の調理師として働けるようになりたいです。

青春のトーク



尊敬する人は両親です
阿部 知也さん
青笹町・19歳・A型・ばんがり



おじゃまします サークルクラブ 紹介

Mr. ソルジャーズ
強気のバレエでリーグ優勝を目指す

「職業も年齢も異なるメンバーですが、団結力はぴかいち。和気あいあいとした雰囲気です。代表の菊池哲也さん(遠野町)は、毎年、リーグ戦終了後の打ち上げでは、チーム内で独自に最優秀選手賞や新人賞を与えるなど、コートの外でも盛り上がりを見せます。メンバーは入れ替わっても、結成当時から変わることなく受け継がれてきた「ミスをおろそかにしない。弱気を恐れる」のモットーで、今シーズンも優勝を目指して奮闘中です。

早く暮らしたかった。嫁に行ったら絶対帰るな。結婚のとき、五十年の思い出は、(幸次) 大迫に裁縫に通っていたところを見初めて、嫁にもらいました。(五朝子) 結婚式の二月一日は猛吹雪。そのとき初めて顔を見ました。(幸次) 早く暮らしたかった。思っている職に就きながら働いてきました。昭和四十年から五十年ごろまでの働きがあるから、今の平穏があります。(五朝子) 嫁に行ったら絶対帰るな。二人で共に生きましよう。

風の人

岩手日報社遠野支局長

遠野の魅力を引き出したい

及川 純一 さん (釜石市出身・31歳)



二月から岩手日報社遠野支局に勤務する及川さん。新聞記者としていた祖父の影響で新聞社やテレビ局の仕事を目指すようになり、「岩手の土地をくまなく歩ける仕事したい」と岩手日報社に入社しました。入社後六年間は新聞広告などの営業を担当し、平成十七年四月から念願の記者に。昨年、滝沢村と雫石町の首長選挙の記事を担当。情勢の分析や候補者の主張の違いを読者に分かりやすく伝えることの難しさを痛

大きくなったら何になりたい？

ひとことインタビュー



山崎 洸真くん (遠野小・1年)

サッカー選手になって、シュートをいっぱい決めたいです。外で雪合戦をして遊ぶのが好きです。



千葉 優美ちゃん (遠野小・1年)

チーズケーキが好きなのでケーキ屋さんになりたいです。音楽の勉強で、歌を歌ったり聞いたりするのが好きです。



菊池 真菜海ちゃん (遠野小・1年)

お花屋さんになって、きれいなお花をたくさん並べたいです。家ではお風呂洗いや玄関掃除のお手伝いをします。



菊池 圭祐くん (遠野小・1年)

パン屋さんになりたいです。好きなパンはカレーパンです。みんなで鬼ごっこをして遊ぶのが好きです。

感じ、記者として思い出に残る一年だったと話します。昨年十二月、遠野支局への赴任の指示が出たときのことを「思い掛けないことでびっくりしました。全国的にも知られている歴史深い地域。良いチャンスをもたらしたと思います。また、一人で支局を任せられるということに気持ちを引き締まりました」と振り返りました。取材先では、ほとんどが初めて体験することばかり。「毎日の取材がとても新鮮な気持ちです。取材で出会う人みんな人情味があって温かいです。そして何よりも風景が良いですね。遠野支局勤務のうちに、ぜひ川での魚釣りや乗馬に挑戦してみたいです」と期待を込めて話します。「県内に遠野の魅力をどんどん発信していきたい」と、今日も市内各地を取材に歩く及川さん。「皆さんの情報をお待ちしていますので、気軽に一声掛けてください」と笑顔で話していました。